



2011年4月27日

各位

北九州 YMCA
総主事 小川健一郎

東日本大震災被災地訪問・活動報告

皆さまからお預かりした物資を持参して、東日本大震災被災者支援として仙台 YMCA ボランティア支援センター他、被災地訪問をし、またボランティア活動をして参りました。

被災地の状況は、深刻であると同時に複雑さを感じました。津波で家や車が流された地域は戦後の写真の風景を見ているようでした。しかし同じ地域内でも、高台の家は被害が免れているところもありました。仙台駅周辺は飲食店等も通常通りの運営を行っており、被災地という感じは一切受けませんでした。

仙台市の社会福祉協議会が行っているボランティアセンターの運営協力を YMCA が行っておりその役割を担ってきました。5月から市内のボランティアセンターの統廃合を行います、YMCA の評価が高くその運営協力も行うことになりました。



センターの役割は、地域で被災された方々からの要望に応じてボランティアを派遣して復旧支援を行うことです。具体的には、被災者の相談、ボランティアの受付登録、作業分担、物品貸出、車で送迎、大型備品の運搬等を行い、被災された方へセンター利用が可能

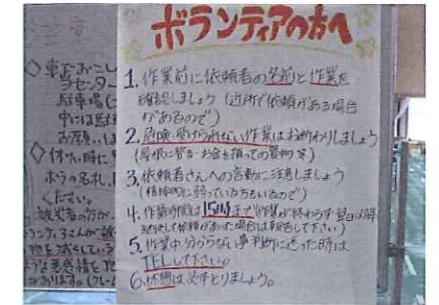
であるチラシ配布も行っていました。私が仙台に滞在している間に何回も余震があり震度4程度のももありました。ボランティアは活動中の2次災害を防ぐために、チームで1つ携帯用のラジオを持参し、避難指示がすぐに伝わるようにしてありました。使用する道具は個人や企業からの寄付で行っていました。ただ、日に日に求められる役割が変わってきており、何が必要かは刻々と変化しています。滞在中に、大手商社さんが社員20名程度のチームでボランティアに参加されていたりしました。チームのリーダーが現場で必要なものを把握したら、すぐに会社から送りますと即断して行動されているのが印象的でした。

心を打たれたのは、毎朝9時からボランティアの受付を開始するのですが、多くのボランティアの方々は、仕事が無くなった方であったり、地域の高校生・大学生で被災された方であるということです。約150名程度のボランティアの方々が、私たちに「行ってきます」と声をかけて、夕方、汗だくになり、泥だらけになって帰っていらっしゃいます。私たちは運営協力が求められていましたが、プリンさんは一日だけ現場のボランティアをさせてもらいました。彼の報告は、ボランティアのみんなが昼ご飯を食べる時間を惜しんで、力の限り必死に支援をしていたということでした。



ボランティアセンターは、大きな体育館が2つある大型施設に入っており、避難所も併設されていました。避難所の中は段ボールで間仕切りがされ、多くの方が生活をされていらっしゃいました。全国の自治体から看護師、栄養士をはじめとした専門チームが支援にあたっていました。ボランティアセンターと避難所は行き来ができない様になっており、中の様子はわかりませんが、落ち着かない日々、将来に対する不安でみなさん大変な状況であることと思います。現地では、祈ることしかできませんでした。

今後も、必要な物資の支援、スタッフ・ボランティアの派遣等で支援を続けて参ります。共に支えて参りたいと思いますので、今回のご支援に対する御礼とともに、今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。



概要

- 日程：2011年4月20日（水）～26日（火）／現地滞在は22日夕方～24日夕方
- 訪問者：小川健一郎（北九州 YMCA 総主事）、プリンジャルガル（ボランティア）
- 訪問先：仙台 YMCA、宮城野区災害ボランティアセンター、周辺訪問（市内）
- 活動：①物資等を仙台 YMCA にお渡しした（仙台 YMCA が被災地に届けている）
②仙台市宮城野区災害ボランティアセンターで運営スタッフとして活動
③被災地視察

- 4月20日（水） 移動（フェリー：新門司→新神戸）
- 4月21日（木） 移動（公用車：新神戸→北陸道経由で仙台）／物資のお渡し／現地状況レクチャー（宿泊：仙台 YMCA 内の教室）
- 4月22日（金） 7：30 出発／8：30～17：00 宮城野区災害ボランティアセンター支援班運営を担当／プリン泥出しチームに参加（宿泊：仙台 YMCA 内の教室）
- 4月23日（土） 前日と同じ
- 4月24日（日） 前日と同じ／17：00～18：30 被災地視察／夜現地発→東京
- 4月25日（月） 移動（公用車：東京→東名経由で新神戸）／フェリー乗船
- 4月26日（火） 7：00 新門司港到着



本件の問い合わせ先
北九州 YMCA （総主事 小川健一郎）
電話 093-531-1587